静岡知事、リニア問題で田代ダム視察　全量戻しは否定

#静岡 #東京 #山梨

2022/8/8 20:30 [有料会員限定]

静岡県の川勝平太知事は8日、JR東海がリニア中央新幹線の工事で流出する河川水量の補塡策として活用を提案している田代ダム（静岡市）を視察した。工事中、ダムの取水を制限し水を確保するJR東海の案については、県の求める「全量戻し」にならないという認識を改めて強調した。

川勝知事は視察の中で「JR東海は責任を持って（水が）戻るように尽力していただきたい」と述べた。トンネル工事で発生する残土の置き場や計画にも問題があるとし、再考を求めた。

JR東海と静岡県との間ではトンネル工事による大井川の水量減少などを巡る協議が難航し、着工の見通しが立っていない。打開策としてJR東海は4月、ダムを所有する東京電力と調整し工事期間中の取水制限を促す案を提示したが、川勝知事は8日の視察でも「県の求める全量戻しにはなり得ない」と指摘した。

ダムに先立ち、豪雨で過去に通行が困難にもなったリニア工事の作業道などを視察した。建設発生土置き場にも足を運び「（残土置き場は）過去地震などの影響で土石流が起きた地形であり、不適当だ」と述べ、大地震による土石流の発生を含めたシミュレーションが必要との認識も示した。

また、静岡県の盛り土規制条例に関連し「盛り土の問題は生態系への影響についてもこれから議論していかなければならない。盛り土条例ができたという新しい状況に対して、対策や盛り土は安全性を議論しなければいけない」と指摘した。

田代ダムの案が浮上した背景には、JR東海が18年に表明した工事中に流出する水の全量戻しを巡る静岡県との協議が進展しない膠着状態がある。20年には品川―名古屋間の27年開業へ早期着工したいJR東海の金子慎社長や当時の国土交通省事務次官が川勝知事と相次ぎ会談したが、理解は得られなかった。

その後議論は国の有識者会議に移り、21年12月に水資源の影響に関する中間報告をまとめた。大井川の中下流域の水量について、工事で発生する水を河川に戻すことで流量は維持されるとした。

中間報告を受け、JR東海が工事で流出する水を補う方策として4月に静岡県に提案したのが、県北部の山梨県境にあり、静岡工区に近い田代ダムの取水制限案だ。田代ダムは1920年代に建設された大井川で最も古い水力発電所用のダムの一つで、大井川から取水する毎秒最大約5トンの水を使い発電し、山梨県側の早川に放流している。

JR東海は環境影響評価準備書で、工事により静岡県側に流れる湧水は対策を講じなければ最大毎秒2トン減ると試算している。適切な措置を施した上で、田代ダムを運営する東京電力と交渉し、トンネル工事で流出する量と同じ水量を取水制限してもらうことで大井川の水量減少問題を克服したい狙いがある。発案に関し、島田市の染谷絹代市長ら流域の一部首長などからは前向きな評価を示す声も上がった。

しかし、JR東海の提案について川勝知事は5月の記者会見で「田代の水はリニアと関係がない。これを戻すからトンネル工事をしてもよいとはならない」と反発した。田代ダムから戻す水が、トンネル工事により流出する湧水でない課題を挙げ、案が実現してもリニアの県内着工を認めない考えを強調。提案を受け、今後協議を進める上で実態を把握するため、田代ダムを視察する考えを示していた。